株主メモ

事業年度	■毎年４月１日から翌年３月31日まで
定時株主総会	■毎年６月開催
基準日	■定時株主総会　毎年３月31日 ■期末配当金　毎年３月31日 ■中間配当金　毎年９月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人	■大阪市中央区北浜四丁目５番33号 住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	■東京都中央区八重洲二丁目３番１号 住友信託銀行株式会社　証券代行部
（郵便物送付先）（お問い合わせ先）	■〒183-8701　東京都府中市日鋼町１番10 住友信託銀行株式会社　証券代行部 （住所変更等用紙のご請求）0120-175-417 （その他のご照会）0120-176-417 （ホームページアドレス） http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html
同取次所	■住友信託銀行株式会社　本店および全国各支店

【株券電子化後の株式に関するお届出先およびご照会先について】

平成21年１月５日に株券電子化となります。その後のご住所変更等のお届出およびご照会は、株主様の口座のある証券会社宛にお願いいたします。

株券電子化前に「ほふり」（株式会社証券保管振替機構）を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座（特別口座といいます。）を開設いたします。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先にお願いいたします。

【株券電子化前後の単元未満株式の買取・買増請求のお取扱いについて】

〈買取請求〉特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日（平成21年１月５日）から平成21年１月25日まで、受付を停止いたします。また、平成20年12月25日から30日までに請求をいただいた場合は、代金のお支払は平成21年１月26日以降となります。

〈買増請求〉平成20年12月12日から平成21年１月４日まで、受付を停止いたします。また、特別口座の株主様につきましては、株券電子化の施行日（平成21年１月５日）から平成21年１月25日まで、受付を停止いたします。

※単元未満株式について「ほふり」を利用されている株主様につきましては、上記取扱と異なりますので、お取引の証券会社へお問い合わせください。

公告方法	■電子公告により行います。 （事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行うものとします。）
上場証券取引所	■ジャスダック証券取引所

ホームページのご案内

アルゼホームページでは、株主・投資家の皆様向けのコンテンツをご用意しております。
IR情報として、会社案内をはじめ、プレスリリース、新製品紹介、決算資料等の会社財務情報を公開しております。今後もより正確で鮮度の高い情報を提供してまいります。

http://www.aruze.com/

［ｉモードサイト］　http://www.aruze.com/i/

＜日本語版＞

＜英語版＞

株主の皆様の声をお聞かせください

下記ＵＲＬにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。所要時間は5分程度です。

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、
アンケートを実施いたします。
お手数ではございますが、ご協力をお願いいたします。

●アンケート実施期間は、本書がお手元に到着してから約2ヶ月間です。

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝（図書カード500円）を進呈させていただきます

http://www.e-kabunushi.com
アクセスコード　6425

いいかぶ　検索　Yahoo!、MSN、exciteのサイト内にある検索窓に、いいかぶ と4文字入れて検索してください。

空メールによりURL自動返信　kabu@wjm.jpへ空メールを送信してください。（タイトル、本文は無記入）
アンケート回答用のURLが直ちに自動返信されます。

携帯電話からもアクセスできます　QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右のQRコードからもアクセスできます。

●アンケートのお問い合わせ「e-株主リサーチ事務局」
TEL: 03-5777-3900（平日 10:00～17:30）　MAIL: info@e-kabunushi.com

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。
（株式会社エーツーメディアについての詳細　http://www.a2media.co.jp）
※ご回答内容は統計資料としてのみ使用させていただき、事前の承諾なしにこれ以外の目的に使用することはありません。

アルゼ株式会社　〒135-0063　東京都江東区有明３丁目１番地25
TEL. 03-5530-3055（代表）　IR関連のお問い合せは　ir@aruze.com

株主通信

ー第36期中間のご報告ー

平成20年4月1日～平成20年9月30日

ARUZE CORP.

目次

株主の皆様へ…… 2
営業の概況および通期の見通し …… 3
クローズアップ：フィリピンのカジノプロジェクト …… 5
ニュース＆トピックス…… 7
連結財務諸表…… 9
財務ハイライト …… 11
株式情報…… 12
会社の概要…… 13
アルゼグループ事業所一覧 …… 14

株主の皆様へ

アルゼ株式会社代表執行役社長
徳田　一

常に新しいエンターテインメントを

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

我々はいま、大変な時代に直面しております。米国のサブプライムローン問題に起因した大型投資銀行の破綻が相次ぎ、それが募らせた将来への不安感が、世界の株式市場を混乱に陥らせ、依然続いている貸し渋り問題の深刻さは、倍加いたしました。パチスロ業界におきましても、規則改正が実施されて以来３年の歳月が経過したものの、射幸性の抑制が引き起こしたユーザー離れが未だに止まらず、市場規模が劇的に縮小した中で、各メーカーの業績不調は際立っております。マクロ、ミクロのどちらの観点からも、当社が現在直面している事態は、極めて重大であると感じざるを得ません。

一方、そういった市場情勢における“エンターテインメント”―つまり娯楽の存在を考えたとき、混乱したこの時世だからこそ、娯楽を通して人々に夢を与えることが、いかに重要であるかを痛感いたします。そこで当社は、娯楽の提供はもちろんのこと、その価値を人々に伝えるために、常に新しいエンターテインメントを生み出すという根本概念を、我々のすべての活動において追求しております。このエンターテインメントの創出が、グローバルエンターテインメント企業のアルゼが目指しているところであります。

当社グループの主要事業である３大コアビジネスでは、それぞれの分野において、従来の楽しみ方を一新させるエンターテインメントを展開しております。

まず、当社の本業である国内パチスロ・パチンコ事業におきましては、資金難にあえぐホール店舗のコスト負担を軽減しながら、ユーザーを市場に引き戻す魅力溢れるゲーム性および強力なコンテンツをフルに活かすために、３筐体で構成されるレンタルプランを提供しております。このレンタルプランは、当社オリジナルキャラクターから人気のアニメ・漫画まで幅広いジャンルを活用した機種を低コストで提供することを可能とし、市場の活発化に大いに貢献するものと確信しております。加えて、ホール店舗における稼動が順調に推移しているパチンコ市場への再参入の準備を進めており、その第一弾として、これまでになかった斬新なコンセプトを盛り込んだ“アルゼらしい”パチンコを近々デビューさせる予定であります。

そして、海外カジノ向けゲーミング機器事業では、一定の払い戻しを保証するシステム「レスキューペイ」および「レスキュースピン」や、複数台を連動させることによってプレイヤー同士での競い合いによる熱いプレイを楽しめる「バトルロイヤル」といった画期的なゲーム性と、長年培った高度技術を融合させた競争力の高い製品を、北米の最大市場であるラスベガスおよび成長著しいマカオをはじめ、世界の各主要市場に導入してまいります。

最後に、カジノリゾート運営事業では、経済や観光業が着実な成長を示しているフィリピンにおいて、アルゼの集大成となるであろう壮大な開発プロジェクトが動き出しました。それが、アジア最高級かつ最大級のカジノホテルと、娯楽性にこだわり抜いた附属施設を取りそろえた総合カジノリゾートです。我々が海外事業において積み重ねた経験およびノウハウを詰めたこのカジノプロジェクトの目的は、リゾート地にふさわしい風光明媚なフィリピンの自然美を最大に引き立てることにより、マカオやシンガポールに勝るとも劣らない世界一流の施設を誕生させることであります。一方、ラスベガス、マカオの２大市場において確固たる成功を収めた当社関連会社のウィン・リゾーツ社も、ウィン・ラスベガスが提供する最高級のエンターテインメントをさらに進化させた待望の大型拡張施設「アンコール・アット・ウィン・ラスベガス」を、本年12月にオープンいたします。

このように、当社が活動する各分野において、新しいエンターテインメントを生み出し、提供し続けることにより、業界に新風を送る所存でございます。これこそが、我々グローバルエンターテインメント企業のアルゼの使命であり、あるべき姿であると考えます。

株主の皆様におかれましては、今後とも何卒倍旧のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

平成20年12月吉日

営業の概況および通期の見通し

1．第36期中間の概況

当第２四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、一部の米国大手証券会社の経営破綻に代表される米国金融から派生した世界的な金融不安による株価の暴落などにより、依然として不安定な状況となっております。

当第２四半期連結累計期間における当社のパチスロ機の市場導入台数は販売および設置が約13,900台、ソフト交換サービスが約20,700台となっております。また、当社が22.7％の株式を保有する持分法適用会社のウィン・リゾーツ社（NASDAQ：WYNN）の第２四半期までの純利益が318,710千USD（33,337百万円）となったことと、ウィン・リゾーツ社が自己株式の取得を行ったことにより、のれんの償却が生じたため、第２四半期までにおける持分法による投資利益として6,713百万円計上しております。

この結果、当第２四半期連結累計期間における売上高は10,593百万円、営業損失は7,242百万円、経常損失は553百万円、四半期純損失は1,294百万円となりました。

なお、配当につきましては通期で25円の支払いを予定しております。

事業セグメント別の業績は以下の通りであります。各業績数値は、セグメント間売上高または振替高および配賦不能営業費用を調整前の金額で記載しております。

①国内パチスロ・パチンコ事業

国内パチスロ・パチンコ事業におけるパチスロ機の市場環境は、４号機から新規則５号機へ移行し、射幸性が厳しく抑制されたことに伴い、ユーザー離れが依然として続き、ホール店舗での購買意欲が激減し、非常に厳しい環境が続いております。そのために、昨年の４～９月期のパチスロ市場導入台数は約1,130千台（注）でありましたが、本年は約430千台（注）、前年比約38％と予測を超えた減少となりました。

パチスロ機については、第２四半期連結累計期間において６機種を投入いたしました。また、約97千台の導入を計画しておりましたが、前述のとおりパチスロ市場規模が縮小したことや、これまで販売を中心としてきた当社子会社であるアルゼマーケティングジャパン株式会社の営業体制が十分に整わなかったことにより、ホール店舗のコスト負担の軽減を目的として導入したレンタルシステムの促進につなげることができなかったことが原因となり、結果としてパチスロ機の各個別タイトルの導入台数計画が未達成となりました。また、１タイトルの投入を延期したことも導入台数の減少に影響し、導入実績は約34.6千台（前年比約29％）にとどまりました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間における国内パチスロ・パチンコ事業の売上高は、8,550百万円、営業損失は602百万円となりました。

（注）当社グループ調べ

②海外カジノ向けゲーミング機器・ゲーム機器事業

海外カジノ向けゲーミング機器事業においては、本年後半の第３四半期からの本格販売開始への準備を進めております。そのため、第１四半期と第２四半期は商品の開発期間と位置づけ、ネバダ州でのカジノ機器申請および認可取得を推進いたしました。アジア市場への販売拡大を目的とし、マカオに販売拠点を設置しております。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間における海外カジノ向けゲーミング機器・ゲーム機器事業は、体制の準備に特化したため、売上高は1,310百万円、営業損失は1,761百万円となりました。

③その他の事業

その他の事業における放送事業につきましては、スカイパーフェクTV!にて平成12年６月に配信を開始した「パチンコ・パチスロTV!」がファンのニーズに応えるチャンネルとして、引き続き確かな支持を得ております。

携帯サイト運営を柱とするメディアコンテンツ事業においては、当社グループの開発会社である株式会社セブンワークスとの連携のもと、携帯サイト「アルゼ王国」を通じて、実機販売と連動する情報の開示、コンテンツの配信を実現しつつあります。また、その他サイトも含めた広告費等のコスト見直しを行い、販管費の抑制に努めました。

以上の結果、当第２四半期連結累計期間におけるその他の事業の売上高は983百万円、営業利益は224百万円となりました。

2．第36期通期の見通し

①国内パチスロ・パチンコ事業

国内パチスロ・パチンコ事業におけるパチスロ機については、急激な回復は見込めない市場環境ではありますが、第３四半期以降は営業体制を抜本的に再構築することにより、業績の回復を図ります。

具体的には、営業体制を、ピラミッド的な組織からフラットな組織へ変更し、これまで各支店で行ってきた管理・教育・指導・入力業務の大半を業務本部に集約させることで、各支店の社員の業務負担を軽減させることにより、顧客に対して営業活動を行う時間を増大させ、実質的な営業力を拡大いたします。また、営業社員に対する管理・教育・指導をテレビ会議システムを使い本社が直接行うことで、リアルタイムに本社と各営業社員との意識の統一を図るとともに、より迅速な対応ができる組織を構築いたします。

現状の多くの営業社員は、既存取引先顧客とのコミュニケーション量を増大し、定期的な訪問を行うことにより、顧客への情報提供や市場情報を収集するとともに機械人気と稼動に注視して、新規モデルの面替営業を積極的に行い、定期的な機械の入れ替え意欲を促進し、徹底的に顧客との信頼関係を深めてまいります。

これをベースとして、レンタル店舗の拡大と販売店舗の拡大に向け、営業力の高い社員の中から新規開拓専門部隊として、レンタル専門部隊と販売専門部隊を選抜し、顧客店舗数の増加に特化させます。

また、４号機から新規則５号機へ移行したことによるユーザー離れに伴い、ホール店舗の購買意欲が低下していることにより、ホール店舗における１機種当りの平均導入台数が減少している現在の市況を踏まえ、ホール店舗のニーズに柔軟に対応できるよう、レンタル契約店舗における最低設置台数を、当面は従来の10台から５台に引き下げることにより、ターゲットとなるホール店舗が約50％増加するものと見込んでおり、販路を拡大し、導入台数を伸ばします。

第３四半期から第４四半期においては、上述の施策に加え、商品プロモーション期間を充分に確保した上で計８タイトルを投入することにより、下期15万台の販売を図ります。

一方で、パチスロ市場と異なり、順調に推移しているパチンコ市場に参入し、新しいコンセプトを盛り込んだ市場競争力のある魅力的なパチンコ機を投入し、５万台の販売を計画しております。

②海外カジノ向けゲーミング機器・ゲーム機器事業

海外カジノ向けゲーミング機器事業につきましては、Aruze Gaming America, Inc.が中心に事業展開を行っており、米国、オーストラリア、南アフリカの３拠点に加え、成長著しいマカオに販売拠点を開設しており、海外カジノ向けゲーミング機器事業の積極的展開を図ってまいります。また、海外カジノ向け次世代ゲーミングマシン「Gシリーズ」の導入を強化し、販売拡大に努め、第３四半期以降の本格販売へ繋げてまいります。さらに、フィリピン工場（2008年12月稼動予定）を開設し、製造部門の集約コスト削減を図ります。

③カジノリゾート運営事業

アジア地域では、フィリピンの首都マニラの埋立地で開発される「バゴン・ナヨン・ピリピノ・エンターテインメント・シティ・マニラ」プロジェクトにおいて、当社を中心としたカジノリゾート運営を計画しております。当社が提案したコンセプトがフィリピン政府の高い評価を受けたものです。その事業化においては、世界最高級の施設建設・運営を実施するため、ホテル建設と運営に関する豊富な知識と経験を有し、魅力的な施設づくりに関するノウハウ、カジノリゾート運営に精通した優秀な人材を中心としたプロジェクトチームを設置して推進しております。また、本年７月には約30ヘクタールの土地を、翌８月には本プロジェクトのカジノ施設の運営に必要となるプロビジョナルライセンス（暫定ライセンス）を関連会社を通じてそれぞれ取得しております。

④その他の事業

放送事業につきましては、当社100％子会社である日本アミューズメント放送株式会社が、平成18年10月に自社収録スタジオを開設したことにより、番組、プロモーションビデオ撮影、編集の一貫作業が可能となりました。パチスロ・パチンコ業界の一大情報メディアとして、常に新しいサービスとコンテンツを模索しながら、ファンの皆様に親しまれる番組作りに取り組んでまいります。

メディアコンテンツ事業主体であるアルゼメディアネット株式会社では、携帯サイト「アルゼ王国」において、さらなる実機販売との連動を図るとともに、またユーザーの皆様へのサービスを向上させるため、サイトのリニューアルを予定しております。下期につきましては、実機連動のプロモーションの強化や他メディアの展開、ならびにマーチャンダイジング事業（商品化事業）にも着手してまいります。

世界が注目するアジアのカジノ市場へ本格参入

フィリピンのカジノプロジェクト

成長を続けるアジアにおいて、娯楽の中心地として期待がふくらむフィリピン。
風光明媚な環境、アジア各国からの至便なアクセスなど、カジノリゾートの新たな好適地にて、
アルゼは本格的なカジノリゾート事業に進出します。

PHILIPPINES

アルゼは、４半世紀にわたるゲーミングマシンの製造・販売、海外カジノリゾート事業の展開によって、国際的な事業の経験と実績を積んできました。また、ウィン・リゾーツ社とのパートナーシップによるラスベガスとマカオでの成功を通じて、富裕層に特化したカジノリゾートのあり方を知ることとなりました。アルゼがもつノウハウと経験は、我々が熟知するアジアという市場において、いよいよ大きな成果を上げようとしています。それが、フィリピンにおける自社開発・運営によるカジノリゾート事業なのです。

約2,500億円の事業規模が見込まれる当社計画のカジノリゾートは、フィリピンの首都マニラの埋め立て地で計画されている「バゴン・ナヨン・ピリピノ・エンターテインメント・シティ・マニラ」に隣接する約40万平方メートルの土地に位置します。ここに建設されるカジノホテルを中心とした多彩な施設は、いずれも富裕層の嗜好を満たし、幅広いお客様にも十分に楽しんでいただける世界一の水準を目指しています。以下に、現在計画中の主な施設をご紹介します。

カジノリゾート　オープンスケジュール

- 2008年　7月
  用地取得
- 2008年　8月
  暫定ライセンス取得
  詳細設計開始
- 2011年11月
  カジノリゾート開業予定

※現在当社が想定している計画であり、今後変更となる可能性があります。

ホテル完成予想図

❶カジノ
フィリピン最大級のラスベガススタイルのカジノ。ホテル最上階にもVIPゾーンあり

❷ホテル
2,000室以上ある客室のいずれも世界トップクラスの面積を誇る

❸ヴィラ
プールやビーチを完備した、VIP専用の広大なプライベート空間

❹レストラン
日本料理をはじめ、中華、フレンチ等のレストランや、バラエティに富んだ料理を提供するブッフェレストラン

❺コンベンションホール
機能的なレイアウトを提供するフィリピン最大級の会議施設

❻プール
VIP専用と一般用に分離され、フィリピン初となる「カバナ」を本格導入

❼スパ
マッサージ、フィットネス、ネイルサロンなどの各施設を取りそろえた総合スパ

❽アクアリウム
大人から子供まで楽しめる、世界の海と出会える世界最大級の水族館

❾キッズランド
子供たちの成長に合わせた、テーマ性の高い教育施設

❿観覧車
特殊構造により、空中と地中という2つの楽しみが味わえるシンボル施設

News & Topics

国内パチスロ・パチンコ事業

パチスロ新機種登場!!

プレイヤーが求める出玉への期待感を見事に実現した機械、それが『怒濤の剣』です。

これまでなし得なかった究極のART（アシストリプレイタイム）継続率を実現。しかも、ART遊技中は、押し順ナビゲーションで誰でも簡単に遊技可能な仕様となっており、無敵の爽快感をプレイヤーに提供します。

さらに、ロールプレイングゲームとタイアップし、『シャドウハーツⅡ』を市場導入いたします。シナリオ・ゲーム性ともに高い評価を得る人気ゲームであり、そのキャラクターがもつ独自の世界観がその演出を通しパチスロの面白さと融合。パチスロファンのみならず、原作ファンも納得の機械として完成しており、新たなプレイヤーをパチスロ市場へ惹きつけることでしょう。

今後アルゼグループは、“技術力”に“タイアップ”という要素を加えパチスロをより身近な娯楽として認知していただけるよう商品開発に取り組み、最高級のエンターテインメントを提供し続けます。

最新機種

怒濤の剣 ロイヤルチェリーVer.

シャドウハーツⅡ

海外カジノ向けゲーミング機器事業

世界市場でのシェア拡大に向けて

以下にご紹介する画期的なシステムやゲーム性と、長年培った高度な技術とが融合した製品を、ラスベガスやマカオをはじめとする世界の主要な市場に導入してまいります。

レスキュースピンとは

従来にはなかった革命的な保証システム「レスキュースピン」に業界で初めて取り組みました。

プレイヤーが大当りの入賞を期待して遊ぶ、それがスロットマシンです。しかしながら、その期待と裏腹に損失が過大になる不安があります。その損失の不安を解決するために生まれたのが、「レスキュースピン」です。

「レスキュースピン」は、大当り確率に連動し、ある一定ゲーム数に達する間に大当りが発生しなかった場合に、フリーゲームのチャンスが発生し、同時に一定の払い戻しが行われる当社独自の新システムです。これにより、損失する場合にも限度が見えることになります。そして安心して遊べることによりプレイヤーの勝負感を促し、カジノの固定客の増加が見込まれるのが最大の魅力です。

バトルロイヤルとは

新マシン「ジャックポットバトルロイヤル」は10台がワンセットになっているため、プレイヤーが競い合いながら賞金を目指すという優れた機能が盛り込まれています。派手な演出はお客様の興味を誘い、音声によるアナウンスがお客様の期待感を盛り立てます。客付きが少ない時はミステリージャックポットが発動し、誰がジャックポットを射止めたかを光の演出で表現し、盛り上げます。

カジノリゾート運営事業

ウィン・リゾーツのさらなる可能性

スティーブ・ウィン氏とともに共同事業として展開しているウィン・リゾーツ社は、ラスベガス、マカオの2主要市場においてVIP顧客を対象とした最高級のエンターテインメント施設を提供し続けています。このたび、「ウィン・ラスベガス」の隣接地において、2,034室のスイートルームや約6,700平方メートルのカジノスペースを追加するゴージャスな拡張施設「アンコール・アット・ウィン・ラスベガス」が、本年12月に待望のオープンを果たします。ウィン・ラスベガスの姉妹リゾート「ウィン・マカオ」においても、VIP向け施設としての充実をさらに高めるべく、400室のスイートルームや4室のヴィラを加えた「アンコール・アット・ウィン・マカオ」が着工され、2010年前半の開業に向けて建設が順調に進行しています。

この二つの「アンコール」の登場により、より強固なブランド確立はもちろん、さらなる利益の増大にも期待できると考えます。

ウィン・マカオ

佐伯選手、北海道マラソン優勝

当社は、より多くの方々にスポーツを通した熱い感動と希望を届けるべく、2004年1月に「アスリートクラブ」を設立しました。アスリートクラブは、小出監督の指導のもと、全日本実業団対抗女子駅伝（2007年度4位）をはじめ、国内の陸上競技大会において輝かしい成績を収めています。

今年8月31日に行われた北海道マラソンにおいては、初マラソンの佐伯由香里選手（19歳）が、大会史上最年少で初優勝という快挙を達成しました。レースは、序盤からトップ争いを演じた佐伯選手が折り返し地点で後続を徐々に引き離し、2位に約30秒の差をつけゴールするという圧巻の内容でした。

佐伯選手は143cm32kgという小柄な選手ですが、小出監督が感心するほど練習熱心で努力家です。今後もマラソン日本代表を目指してさらに活躍が期待できます。

当社は、佐伯選手をはじめ、アルゼアスリートクラブと日本陸上界のさらなる発展のために、微力ながら尽力してまいります。

写真提供：北海道マラソン事務局（表紙写真含む）

連結財務諸表

■四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科目 ＼ 期別	当第2四半期末（平成20年9月30日現在）	前期末（平成20年3月31日現在）
	金額	金額
（資産の部）		
流動資産	**51,117**	**108,543**
現金及び預金	5,459	32,613
受取手形及び売掛金	10,889	15,331
有価証券	832	23,391
たな卸資産	28,764	27,995
その他	5,282	9,387
貸倒引当金	△ 113	△ 175
固定資産	**113,249**	**76,267**
有形固定資産	**20,513**	**19,764**
無形固定資産	**923**	**1,060**
のれん等	923	1,060
投資その他の資産	**91,811**	**55,443**
投資有価証券	54,772	51,635
長期貸付金等	39,902	6,179
貸倒引当金	△ 2,863	△ 2,371
繰延資産	**11**	**15**
資産合計	**164,378**	**184,826**
（負債の部）		
流動負債	**21,949**	**27,849**
支払手形及び買掛金	2,416	7,497
短期借入金	4,189	49
１年内返済予定の長期借入金	1,825	872
１年内償還予定の社債	1,800	2,300
未払法人税等	436	3,965
賞与引当金	227	298
その他	11,054	12,865
固定負債	**6,671**	**9,650**
社債	2,700	3,350
長期借入金	385	1,719
その他	3,586	4,580
負債合計	**28,621**	**37,499**
（純資産の部）		
株主資本	**141,493**	**147,584**
資本金	3,446	3,446
資本剰余金	7,503	7,503
利益剰余金	132,180	138,270
自己株式	△ 1,636	△ 1,636
評価・換算差額等	**△ 5,967**	**△ 357**
その他有価証券評価差額金	9	31
為替換算調整勘定	△ 5,977	△ 389
新株予約権	**143**	**99**
少数株主持分	**87**	**—**
純資産合計	**135,757**	**147,327**
負債純資産合計	**164,378**	**184,826**

■四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目 ＼ 期別	当第2四半期（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）	［ご参考］前第2四半期（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）
	金額	金額
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,479	9,160
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 34,636	8,358
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,523	△ 19,544
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 3,073	654
現金及び現金同等物の増減額	△ 49,712	△ 1,371
現金及び現金同等物の期首残高	56,004	39,149
現金及び現金同等物の四半期末残高	6,292	37,778

当冊子の表記について

当期から金融商品取引法に基づく四半期報告制度が導入されたことにより、表記内容が変更されていますが、当冊子では株主様の利便性を考慮し、以下を取り決めました。

■収益関連数値については、期初からの「累計値」を用いています。

■当四半期の財務情報と前年同期の財務情報とでは会計基準や用語表現などが異なります。しかし前年と比較しやすいよう、主要数値については「ご参考値」として併記しています。その際、前年同期（中間期）については「第２四半期」と記述しています。

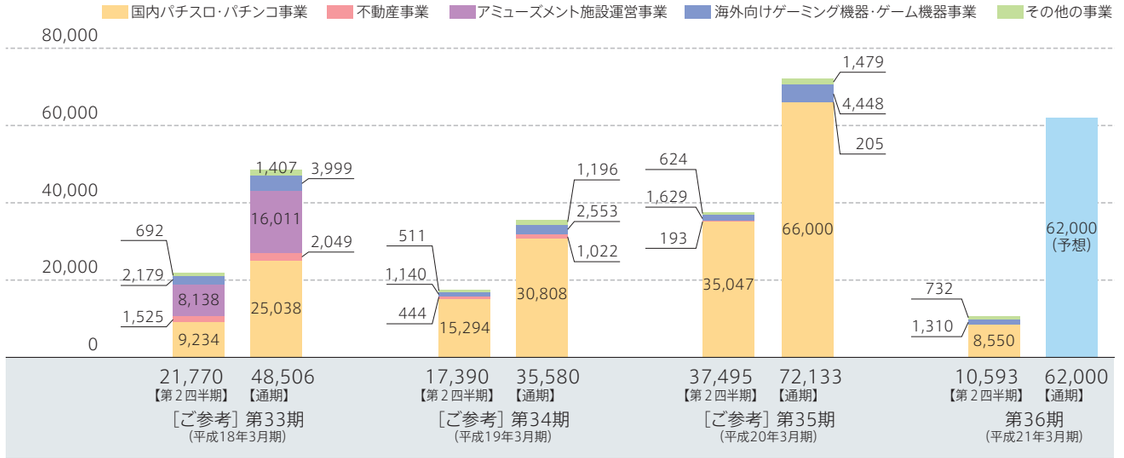
■四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科目 ＼ 期別	当第2四半期（自 平成20年4月1日 至 平成20年9月30日）	［ご参考］前第2四半期（自 平成19年4月1日 至 平成19年9月30日）
	金額	金額
売上高	10,593	37,495
売上原価	5,675	15,756
売上総利益	4,918	21,738
販売費及び一般管理費	12,160	12,367
営業利益（△は損失）	△ 7,242	9,371
営業外収益	7,348	4,928
営業外費用	659	178
経常利益（△は損失）	△ 553	14,121
特別利益	377	4,337
特別損失	284	1,378
税金等調整前四半期純利益（△は損失）	△ 459	17,080
法人税、住民税及び事業税	434	1,832
法人税等調整額	400	△ 170
四半期純利益（△は損失）	△ 1,294	15,461

●セグメント別売上高の推移（連結）

（単位：百万円）

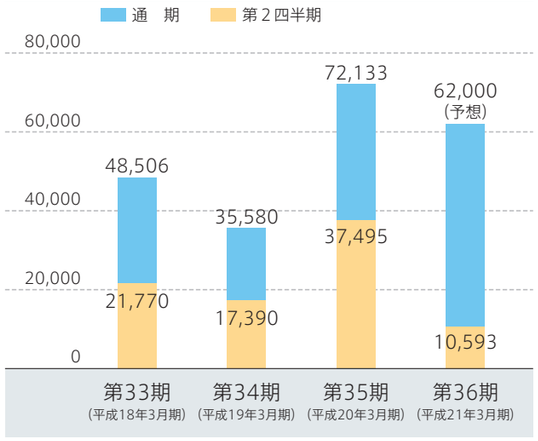


※アミューズメント施設運営事業は、平成18年3月30日にアドアーズ㈱が当社連結子会社から持分法適用関連会社（連結対象外）となったため、平成19年3月期よりセグメントがなくなっております。
※セグメント別売上高は、内部取引消去後の金額で記載しております。

財務ハイライト

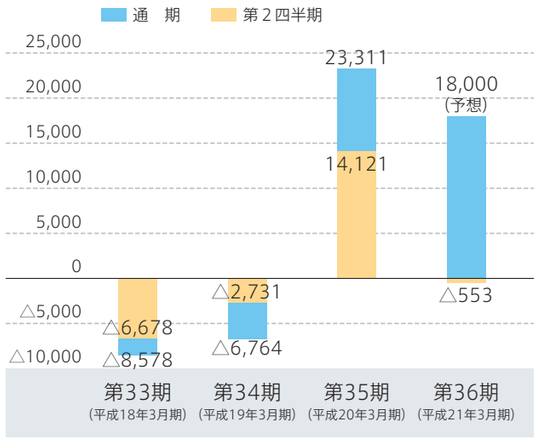
売　上　高

（単位：百万円）



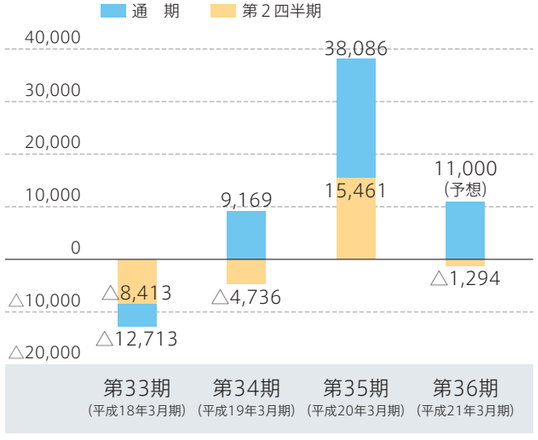
経　常　利　益

（単位：百万円）



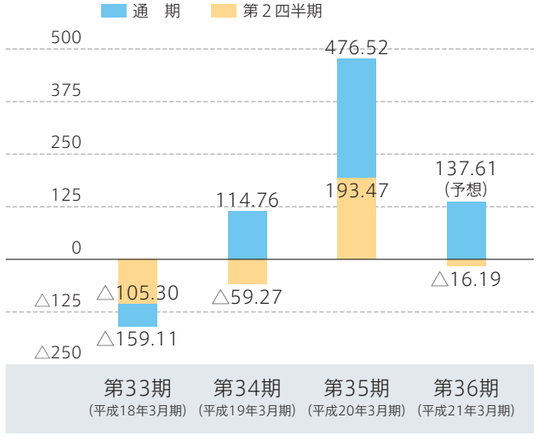
当期純利益

（単位：百万円）



1株当たり当期純利益

（単位：円）



株式情報 （平成20年9月30日現在）

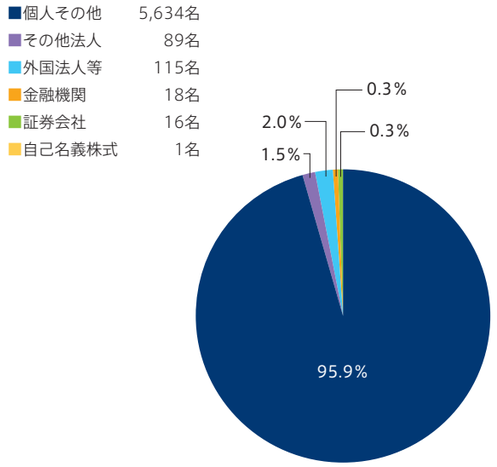
■株式の状況

発行可能株式総数	324,820千株
発行済株式の総数	80,195千株
株主数	5,873名

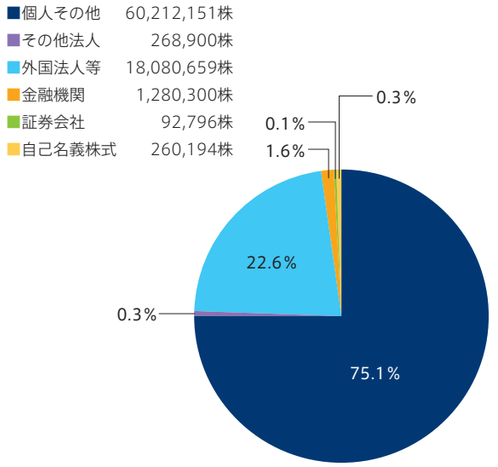
■大株主の状況

株主名	持株数	議決権比率
岡　田　和　生	25,228,300株	31.6％
岡　田　知　裕	23,615,600株	29.5％
ゴールドマン・サックス・アンド・カンパニーレギュラーアカウント	7,263,200株	9.1％
岡　田　裕　実	5,325,000株	6.7％
横　塚　ヒ　ロ　子	2,390,000株	3.0％
モルガン・スタンレーアンドカンパニーインク	1,215,400株	1.5％
ジェーピー モルガン チェース バ　ン　ク　３８００５５	879,600株	1.1％

■所有者別株主数分布



■所有者別株式数分布



会社の概要（平成20年9月30日現在）

商　　号	アルゼ株式会社（英訳名　ARUZE CORP.）
本　　社	〒135-0063 東京都江東区有明３丁目１番地25
創　　業	昭和44年
設　　立	昭和48年
資 本 金	34億4,685万円
従業員数	1,332名（連結）、200名（単体）
役　　員	岡田　和生　取締役会長（指名委員、報酬委員）
	岡田　知裕　取締役　（監査委員）
	澤田　宏之　社外取締役（監査委員長）
	岩渕　正紀　社外取締役（指名委員長、報酬委員）
	中込　秀樹　社外取締役（報酬委員長、指名委員）
	北畠　光弘　社外取締役（監査委員）
	大塚　直子　社外取締役（監査委員）
	徳田　　一　代表執行役社長
	關　　宏毅　執行役
	丹治　幹雄　執行役
	山崎　和彦　執行役

本社

四街道工場

事業内容　パチスロ機・パチンコ機・各種アミューズメント機器・海外カジノ機器の企画・開発・製造・販売および、スティーヴ・ウィン氏との共同事業『ウィン・リゾーツ社』を通じて、世界最大級のカジノリゾートを展開。また、当社グループを中心としたフィリピンにおけるカジノリゾートプロジェクトを進行中。

事 業 所　本社、工場（四街道、小山）

主な取引銀行　（株）あおぞら銀行、（株）三井住友銀行、（株）三菱東京UFJ銀行（50音順）

主要な子会社

アルゼマーケティングジャパン（株）	日本アミューズメント放送（株）
アルゼレンタルサービス（株）	（株）ピートゥピーエー
（株）セブンワークス	（株）特許情報開発
アルゼグローバルトレーディング（株）	Aruze USA, INC.
（株）メーシー販売	Aruze Gaming America, Inc.
（株）エレコ	Aruze Gaming Africa（Pty）Ltd.
（株）ミズホ	Aruze Gaming Australia Pty Ltd.
（株）セタ	北京アルゼ科技開発有限公司
アルゼメディアネット（株）	

アルゼグループ事業所一覧（平成20年11月30日現在）

■国内

アルゼ（株）　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
四街道工場　千葉県四街道市鷹の台１-１
小山工場　栃木県小山市荒井561

アルゼマーケティングジャパン（株）
本　　社　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
札幌支店　北海道札幌市中央区南３条西６-３-２
青森支店　青森県青森市長島１-３-21
盛岡支店　岩手県盛岡市盛岡駅前通15-20
仙台支店　宮城県仙台市宮城野区原町３-７-３
北関東支店　栃木県宇都宮市東宿郷４-２-24
水戸支店　茨城県水戸市城南２-９-12
新潟支店　新潟県新潟市中央区笹口２-７-21
長野支店　長野県長野市安茂里小市１-13-55
埼玉支店　埼玉県さいたま市大宮区宮町２-35-２
東京支店　東京都江東区有明３-１-25
千葉支店　千葉県千葉市美浜区中瀬２-６
神奈川支店　神奈川県横浜市中区桜木町１-１-８
静岡支店　静岡県静岡市駿河区宮竹２-15-10
名古屋支店　愛知県名古屋市東区東桜１-４-３
金沢支店　石川県金沢市駅西新町１-39-８
京都支店　京都府京都市下京区新町通五条下ル蛭子町107-３
大阪支店　大阪府大阪市西区南堀江１-１-14
神戸支店　兵庫県神戸市中央区雲井通４-２-２
岡山支店　岡山県岡山市辰巳38-102
広島支店　広島県広島市南区稲荷町５-18
四国支店　愛媛県松山市三番町４-４-９
福岡支店　福岡県福岡市博多区博多駅南２-１-５
熊本支店　熊本県熊本市中央街３-８
鹿児島支店　鹿児島県鹿児島市大黒町１-３

アルゼレンタルサービス（株）　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）セブンワークス　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
アルゼグローバルトレーディング（株）　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル

（株）メーシー販売　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）エレコ　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）ミズホ　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）セタ　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
アルゼメディアネット（株）　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
日本アミューズメント放送（株）　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）ピートゥピーエー　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル
（株）特許情報開発　東京都江東区有明３-１-25 有明フロンティアビル

■海外

Aruze USA, Inc.
745 Grier Drive, Las Vegas, Nevada 89119, U.S.A.

Aruze Gaming America, Inc.
745 Grier Drive, Las Vegas, Nevada 89119, U.S.A.

Aruze Gaming America, Inc. Macau Branch（仮登記申請中）
Unit M, 9th Floor, Centro Commercial Group Brilhantismo Building N°s 181-187, Alameda Dr. Carlos D'Assumpção, Macau

AGA Philippines, Inc.
Panorama Bldg., Unit 3 to 5, Blk. 3, Lot 2 & 4, Phase 5, East Science Ave., Laguna Technopark, Binan, 4024 Laguna, Philippines

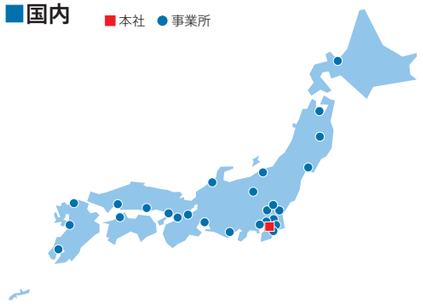
Aruze Gaming Africa (Pty) Ltd.
Unit 1-3, Kyalami Village, 57 Forssman Close, Barbeque Downs Ext. 1, Kyalami, South Africa

Aruze Gaming Australia Pty Ltd.
23-27 Bourke Road, Alexandria, N.S.W. 2015, Australia

北京アルゼ科技開発有限公司
中国北京市経済技術開発区中和街14号

※当社は、平成19年10月１日をもって事業持株会社となりました。
それに伴い、従来の営業所、出張所はアルゼマーケティングジャパン（株）の支店となっております。

■国内　■本社　●事業所



■海外